

■シリーズ■ 中学校武道

授業の充実に向けて 72

外部指導員の活用例 合気道

丸亀市立飯山中学校 教諭 草野 千春

本校は平成24年度から実施された武道の必修化以前は、男子に柔道の授業を実施していた。しかし、部活動における柔道の事故に関する報道が多く出るにあたり、保護者から不安の声が挙がるようになった。そこで、徳永秀文校長より女子において合気道授業の実践が提案され、導入することとなった。

合気道経験者の徳永校長より合気会丸亀道場の堀家^{ほりけ}和宣^{かずのぶ}師範を紹介され、特別非常勤講師として、授業にお越しいただくことになった。

本稿では現在も続くその取組について、生徒の感想や私の思いを含めて紹介したい。

1 外部指導員活用にいたった経緯

本校では、以前より保健体育科授業の年間指導計画の中で、男子は柔道を毎年組み込み、男性の体育科教員が指導に当たっていた。そういった中で、平成24年度からの新学習指導要領完全実施を受け、中学校では男女を問わず、武道が必修となった。

本校の保健体育科では、今まで

3 指導の概要

全体の指導計画

事前に道場へ体験入門し、初心者^{初心者}の生徒を対象にするため、どの技を指導するか堀家先生と細かく

打ち合わせを行った（次頁表に、全体の指導計画を掲げた）。

指導上の注意点

武道に初めて触れる生徒が多いため、礼や正座、心構えについてオリエンテーションで話をした。また、ケガをしない、させないために受身の重要性を繰り返し指

2 教員の役割と外部指導員の役割

しかし、保健体育科の教員の中には、武道を専門としている者がおらず、また、合気道の経験もない教員が指導することになるので、徳永校長の知り合いでもあった合気会丸亀道場の師範である堀家^{ほりけ}和宣^{かずのぶ}先生に依頼して、特別非常勤講師として来ていただき、平成24年度より1年生、2年生の女子生徒を対象として授業を行うことにした。

中学校の保健体育の授業であることから、指導は保健体育科教員が主導して行い、堀家先生には1・2として、技を行う上での大事な



中学生同士による逆半身片手取り四方投げ
（写真は中学校武道授業〔合気道〕指導法研究事業）

武道授業指導計画

丸亀市立飯山中学校

	平成 25 年度 第 1 学年 合気道単元計画	平成 25 年度 第 2 学年 合気道単元計画
	指導内容	指導内容
1	①オリエンテーション ②柔道着の着方、畳み方 ③礼法 ④構え	①オリエンテーション (合気道について復習) ②礼法 ③構え、後ろ受身 ④膝行
2	①準備運動 ②体さばき、足の動かし方 ③歩み足、転換足 ④後ろ受身	①準備運動 ②跪座、膝行 ③呼吸法 ④相半身片手取り角落とし
3	①準備運動 ②受身 ③跪座、膝行 ④呼吸法 ⑤逆半身片手取り角落とし	①準備運動 ②跪座、膝行 ③呼吸法 ④相半身片手取り角落としの復習 ⑤相半身片手取り小手返し
4	①準備運動 ②受身 ③跪座、膝行 ④呼吸法 ⑤逆半身片手取り角落としの復習 ⑥相半身片手取り小手返し	①準備運動 ②跪座、膝行 ③呼吸法 ④相半身片手取り小手返しの復習 ⑤逆半身片手取り四方投げ
5	①準備運動 ②受身 ③跪座、膝行 ④呼吸法 ⑤相半身片手取り小手返しの復習 ⑥実技テスト	①準備運動 ②跪座、膝行 ③呼吸法 ④相半身片手取り第一教 ⑤実技テスト

導し、全員がきちんと受身をとれるように段階的に指導し、毎時間ウォーミングアップで取り入れた。

指導の実際

授業は、1年生、2年生ともに5時間の指導計画を立てた。すべての授業で堀家先生と女性の補助の指導員に入っていた。柔道着は学校で購入し、貸し出しという形で行った。

1年生は、合気道に初めて接する生徒がほとんどであったため、合気道の特性や成り立ちを学習してから、礼法や柔道着の着方、畳み方、構えから入った。ケガを防止するため、受身を重点的に行った。また、跪座、膝行、呼吸法を毎時間導入として行い、「逆半身片手取り角落とし」と「相半身片手取り小手返し」を技として行った。

2年生は、昨年度に合気道を行っていたことから、跪座、膝行、呼吸法、「逆半身片手取り角落とし」と「相半身片手取り小手返し」を復習し、「逆半身片手取り四方

投げ」「相半身片手取り第一教」を技として取り入れた。生徒も何回かすると感覚を思い出し、新しい技にもスムーズに入ることができ、興味をもって取り組んでいる生徒がほとんどであった。

また、授業の雰囲気作りをするため、柔道場の神棚に、創始者である植芝盛平先生の写真を奉り、授業初めと終わりの礼では神棚に對しても礼をするよう指導した。

授業後に生徒にアンケートを行ったところ、「授業内容が充実していたかどうか」という問いに對



全国合気道指導者研修会で飯山中学校の取組を紹介する筆者

して、「あてはまる」と答えた生徒が84%、「学習の理解が深まり、技能が向上したかどうか」という問いに對して、「あてはまる」と答えた生徒が71%、「人間関係や雰囲気がよくなったかどうか」という問いに對して、「あてはまる」と答えた生徒が69%となった。具体的には、「礼儀が身についた」「技ができておもしろかった」「武道に関心を持つようになった」「細かいところまで知識が増えた」など、肯定的な回答が多くみられた。

4 外部指導員活用における課題とその対策

生徒のアンケートの中で、外部指導員に對しての感想を聞いたところ、「優しく丁寧に教えてもらった」「外部の先生に来ていただくことがないのでよかった」「来年も教えてほしい」「楽しく活動できた」という肯定的な意見が多くあった。

一方で、「質問がしにくかった」「男の先生に教えてもらうのは少

し抵抗があった」「もつとおもしろく楽しかった」という意見もあった。

また、約3週間も堀家先生の時間を拘束すること、謝金面では教育委員会からの補助金を申請できる時間数に上限があり、不足分はPTAの経費から出さざるを得なかったことなど、経費面での課題が残った。

さらに、教員自身が道場へ何度も出向き自身が技を身に付けること、外部指導員と念入りな打ち合わせをした上で授業を行うための時間を生み出すことが現実の問題として難しいと感じた。

5 今後の外部指導員活用について

本校では、今年度も10月より堀家先生に来ていただき、合気道の授業を行う予定である。

生徒からも、「合気道はいつやるん?」という声を聞いており、生徒が楽しみにしている様子が窺える。

6 まとめ

武道必修化の中、本校に着任し、初めて合気道に接する機会を持つことができた。教員になると新しい競技や武道に接することがほとんどなくなるが、その中で出会えたこと、また、ベテランの堀家先生とともに授業を行えたことは、新たな指導経験を積むことができ、大変光栄であった。

さらに、徳永校長の薦めで、日本武道館・合気会主催の第一回全国合気道指導者研修会にも堀家先生とともに参加させていただいた。この中で、学校現場で合気道を行っている全国の先生方との出会いや、合気会の方から直接実技指導をしていただいたことは、今後の指導を行う上で大変参考になるものばかりであった。

このように、恵まれた環境の中で授業ができていることに感謝し、今後の武道指導に生かしていきたいと思っている。